

第2回 紀の川市教育課程検証委員会

平成28年10月11日
本庁舎4階402会議室
17:25～19:20

1 開 会

2 委員長あいさつ

第2回紀の川市教育課程検証委員会にご出席いただき、ありがとうございます。先日、事務局から本日の開催通知に同封して、会議資料等も届けられたことと思います。それらの資料を基に本日の議事に沿って活発なご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日の会議で委員の皆様からいただきましたご意見を基にしまして、次回の第3回紀の川市教育課程検証委員会でご審議いただく答申(案)を作成することになります。今日はじっくりご審議いただき、忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。

3 議 事

(1) 教育課程のアンケート調査の結果について

教育課程のアンケート調査の結果について、事務局が説明し意見を求める。

〈委員長〉ただいま、教育課程のアンケート調査の結果について、事務局から報告を受けましたが、何か委員の皆様からご質問があればお願いします。

【委員から質問無し】

(2) 2学期制の期待される効果と今後の継続についてについて

〈委員長〉2学期制の期待される効果と今後の継続について、委員の皆様と「2学期制の成果と課題及び今後のあり方」を検証したいと思います。ご意見をいただきたいと思います。

〈委員A〉私は2学期制の経験がないのですが、アンケート結果から、2学期制はテスト回数・成績書類・通知表の回数が少なくなって教員にとっては良いとの意見でしたが、実際に2学期制でも実質3学期制の小学校があったり、中学校でもテスト範囲が広がって生徒が困っている部分が多いと思いました。実際に2学期制になってうまく行ってなかったと思います。意見としては、2学期制を全て3学期制に改めた方が良いと思います。

〈委員長〉教員用のアンケート調査の結果では、あまり2学期制に対する評価が良くないという結果が出ています。なるほどと思われる委員もあれば、アンケート結果が意外であったと思われる委員もいると思いますが、その辺りどうでしょうか。

〈委員B〉今は3学期制の小学校ですが、前任は2学期制の小学校に勤めていました。

小学生では長期休業（夏休み・冬休み・春休み）で学期の区切りになっているので、圧倒的に明確で分かりやすいです。2学期制は10月の連休が区切りとなっていますが、実際の子ども達の生活リズムは、2学期制では夏休み前集会（3学期制なら終業式）をやって、夏休みを終わっての集会をやって、10月の3連休前に終業式をやって、連休明けに始業式をやっています。子ども達の生活リズムから言って10月の3連休前後に学期が変わることを全く意識していなかったと思います。子ども達にとって分かりやすいのは、長期休業を学期の区切りとすることだと思います。保護者面談も3学期制の区切りで実施した方が保護者に伝えやすいと思います。

〈委員長〉 他の委員の皆様からご質問があればお願いします。

〈委員C〉 私は貴志川地区の小学校に勤務していて、今日が3学期制の2学期のスタートの日でした。4日前が1学期の終業式でしたが、短時間に校長の話だけで済まし、今日は2学期のスタートの式は割愛しました。子ども達にとっても教員にとっても式としてあまり効果がないので、行事の精選からすると、夏休みと冬休みの前後の集会は長期休暇を挟むので外せませんが、2学期制だけのための式をすると行事が増えてくるので、本末転倒の話になるところがあるからです。私の小学校では、近年ずっと表向きは2学期制ですが実質的には、通知表も懇談会も何から何まで3学期制の小学校と同じに動いています。戸惑っているのは保護者の方です。例えば、冬休み前の懇談会で、保護者は2学期が終わったつमोरの話になりますが、教員としては、まだ2学期の途中ですといった話になります。保護者は、2学期制に慣れてはいるのですが、実質3学期制で運営しているのに、2学期制を3学期制に改めないことを疑問に思うのが保護者の本音です。校長も私も何人かの教諭も保護者から説明を求められ説明しました。私が言いたいのは、実質的に3学期制なのに、このようなアンケートを実施しても、本校の保護者としては「何を今更」といった受止め方でした。一番感じることは、「おかしいと自分たちも学校も思っているのに、なぜ改めないのか」、「そこには何かあるのではないか」といった気持を持った保護者がおり、その保護者のパワーが大きかったりして、学期制の話だけでなく別のことで問題やトラブルがあったりした時に、学校や行政はそんな体質だと思われ、違うところで悪い影響を与えるのではないかと思っています。このアンケートの結果を踏まえて、はっきりしたと思いますので、今後の小学校は3学期制にした方が良いと感じました。

〈委員長〉 今、小学校の先生から意見をいただきましたが、中学校の先生のご意見があればお願いします。

〈委員D〉 中学校の2学期制は貴志川町で始まったのですが、当時はアンケートを取ったり教員の意見を聞くことも無く突然2学期制が導入されました。2学期制の導入の目的は、授業時間の確保がきっかけでしたが、その後いろんな理由を付けて強引に進められました。その仕方に「2学期制はどんなのかな」という意識を植え付けました。中学校では学期が長いので子どもの修正が効きにくく、3学期制だったら1学期の遅れを2学期に取返し3学期で合計できるといったことを考えて2学期制を導入しなかったことが問題になっています。そのため、学校によっては、通知表なしで素点表だけで懇談会をしています。保護者から

それは非常に困ったことだと声が挙がっています。私の中学校では、3学期制と同じように3回通知表を渡しています。そうしないと上手く成績が出にくく、定期テストは子どもの負担を考えると年間5回が必要と思います。3学期制に戻して欲しいと思います。

〈委員E〉 私は中学校で3年生を担当しているのですが、10月7日に通知表を渡して、その際に次の学期もがんばろうと言っていますが、今の2学期制での成績評価では、1月に私立高校を受験する生徒の場合には、前期の成績で推薦書を作成することになってしまうので、その後に成績を上げるためのやる気が起きてきません。他の部分でも2学期制の問題点をカバーするために3学期制の利点を導入しており、教員への余分な仕事が負担になっている学校現場があります。

〈委員長〉 今までの意見では、学校現場では2学期制より3学期制を望んでいるとしてよろしいでしょうか。委員Fは小学校保護者の代表ですが、どのように受止めていますか。

〈委員F〉 私自身は3学期制の経験しかなく、2学期制の良さや違いを分かっていなかったのですが、先生方の話を聞かせてもらい、アンケート結果を見る中で、何の違和感もなく思ったとおり先生の意見も3学期制を望んでいます。先生方の負担については、よく分からないのですが、1学期が終わって長期休みに入って長いスパンでの取組みができたり、気持の切り替えができることは大事なことだと思います。

〈委員G〉 保護者としては、2学期制でも3学期制でもいいですが、学校現場では実質3学期制となっています。2学期制で不便と感じたことは何也没有せん。アンケート結果では、3学期制に戻したい方向に向かっていますが、3学期制に戻すのであれば、2学期制を支持している保護者への説明が必要であると思います。2学期制の成果をどう感じているかの検証も必要です。

〈委員長〉 2学期制のどこに魅力を感じていたのかを検証することが大切です。3学期制に戻すとしても、「2学期制にして期待される効果」が保証されるということが見えないと理解していただけないと思います。2学期制のデメリットはよく分かりました。保護者の中でどこに2学期制のメリットを感じているのかということを読み込んで見て行くべきかと思います。2学期制のままで良い保護者のアンケート意見は、「特に問題がないから」が多かったのですが、少数ではあります。期待される効果としていた、「教師と生徒が向かい合う時間が増える」、「繰り返し学習が可能になる」等を期待していた部分がある訳ですから、3学期制になってもその部分には2学期制の時以上に取組んで行くことが保護者への答えとなります。私は導入の経過は知りませんが、委員からの説明で2学期制がよくわからないうちに突然導入されたとありましたが、それが保護者に対する不信感に繋がっているのであれば、今度3学期制にする時にも、アンケートはしたがその事に何らの説明もなく、「多い少ないで3学期制になりましたよ」では困りますので、期待される効果というところで、実際にどういう経緯で導入されたかは別にして、期待される効果を導入時に保護者に説明しているのだから、したことに対して責任を取る必要があります。2学期制導入のメリットを説明したのだから、期待される効果について一定の説明が必要となり

ます。その辺りで委員の皆様からご意見ありませんか。3学期制になっても、期待される効果としていた、「教師と生徒が向かい合う時間が増える」、「繰り返し学習が可能になる」が可能であるとお考えでしょうか。何かご意見がありましたらお願いします。

〈委員H〉 中学校では、2学期制導入よりも夏休みの短縮で授業数の確保や行事に時間のゆとりを持たせたメリットはありました。テストの回数を減らしていることや範囲が広がったことにアンバランスを感じます。岩出市は3学期制で定期テストが5回あって範囲が一定していて補習や補充学習も定期的に行っていましたので、3学期制の効果は大きかったと思います。生徒と教員が向き合う時間は2学期制であれ3学期制であれ教員が取組まなくてはいけない時間です。

〈委員長〉 2学期制の導入時は、定期テストの回数が少なくなるので、生徒が興味や関心を深める時間が増える期待があったと思いますが、その期待は実現できたのでしょうか。それよりも、一定範囲の中で定期テストをした方が子ども達にとっての定着や学習への意欲に繋がり、2学期制よりも3学期制の方が「やり直しが効く」「新しい学期に向かってスタートをきりやすく、3年生の入試に関わってはそういう面が強い」との意見をいただきました。その辺りについては、どうでしょうか。

〈委員B〉 小学校で学習の定着は單元ごとに担任教諭が徹底して指導していますので、学期制は関係ありません。児童と教員が向き合うことも同じであります。

〈委員I〉 アンケート結果によると、2学期制は良くないとの結果になっていますが、特色ある学校づくりができるとして2学期制を導入した当時は、学校現場と教育委員会の意思疎通が図られてきたか問題がありますので、3学期制に戻すことはやぶさかではないですが、2学期制が期待どおりの成果を得られなかった検証と説明が必要で、その後に3学期制に戻すべきであると考えます。

〈委員長〉 教育委員会には2学期制を導入した一定の責任があります。導入する時は誰にも意見を聞かずに2学期制を導入したかもしれませんが、導入したものを変えようとするのですから、一定の説明をしないと、2学期制を受けてきた児童生徒や保護者に対して無責任な話だと思えます。「なぜ2学期制を導入したのか」、「目標を果たせたのか」について、一定の説明が必要になります。2学期制の期待される効果の成果を振り返って、今後3学期制に戻した時に、その成果をどう生かし、しっかり経緯を踏まえて答申に含める必要があります。ひとまず、学期制については、方向として2学期制よりも3学期制が良いとさせていただきます。

(3) 夏季休業期間の短縮（小学校は3日、中学校は7日）の今後の継続について

〈委員長〉 次に、夏季休業期間の短縮の今後の継続についてご協議いただきたいと思えます。アンケート結果では、教員と保護者では意見が逆転しているようです。

〈委員D〉 教員と保護者では視点の観点に違いがあると思えます。中学校では教員はクラブ活動で夏休みの後半まで時間が取られてしまう視点で考えていますが、保

護者は子どもが自宅にいるより学校にいる方が安心の視点で考えています。臨時休校のため授業時数が減る部分を夏季休業期間の短縮で補えるメリットはあります。

〈委員C〉 授業時数の確保については、2学期制を導入したときから実現できています。8月後半は、研修等で日程が詰まっています。小学校は、現状で授業時数が確保できているので、これ以上短縮する必要はありません。

〈委員A〉 子ども達の教育を誰が保証するか共通認識を持つことです。学校・家庭・地域の3者で見守られて育つことが大切です。夏休み明けの授業開始は、従来の9月1日から良かった。学力向上のために夏休みが過ぎて行ってしまっています。そういう意味でも小学校の夏休み期間は、今までどおりとし、中学校はクラブ活動が大変だし、教師が自分達の研修する時間も必要であるので、なるべく長い夏休みがあれば有りがたいと思います。

〈委員G〉 そもそも夏休みを前倒ししないと授業時数が確保できないのでしょうか？

〈委員B〉 小学校は、現状で授業時数が確保でき、9月1日始まりでも授業時数は足りています。

〈委員D〉 中学校は厳しいです。臨時休校が増えると短縮しないと授業時数は足りません。

〈委員B〉 昨年、警報発令やインフルエンザで臨時休校がありましたが、それでも足りています。時間割の工夫で1コマ多く入れているからです。

〈委員H〉 中学校でも1・2年生は足りていますが、特に中学3年生で高校入試にあわせて卒業式が早いので、その分が不足します。

〈委員G〉 不足する分は、どこかで補填しないといけないですね。

〈委員長〉 不足する分を前もって夏休み中に補填しておくか、冬休みを削るかになります。中学校はぎりぎり足り、小学校では、中学校のように定期テストがないので授業時数は足りています。今のところ授業時数が確保できますが、保護者方がこれだけ夏季休業期間の短縮を今後も継続する方が良いと答えていることから、現状の短縮を継続することについて、どう扱うかになります。

〈委員I〉 小学校3日、中学校7日夏季休暇短縮について、管理職と一般教員でアンケート結果が逆転していることに興味があります。闇雲に夏季休業を減らす必要はなく、基本は授業時数が足りて学校経営がうまく行くのかの視点で見れば良いと思いますが、管理職と一般教員でアンケート結果が逆転していることの原因を知りたいです。

〈委員長〉 管理職の61%が夏季休業期間の短縮継続を賛成しているが、一般教員のアンケート結果と逆転しているのですが、管理職の先生のご意見はどうか。

〈委員D〉 先生方は、夏休み中の研修が非常に多く、とにかく忙しいことを世間で知られていません。授業時数の確保のためには、夏季休業期間の短縮継続は仕方ないと思います。

〈委員B〉 このアンケートに対し、管理職は教育委員会に回答者が特定されることを配慮し、かなり遠慮して回答していることを参酌してもらいたいと思います。

〈委員長〉 一般の先生方が短縮継続に賛成しない理由は分かりますが、管理職は継続したほうが良いと思う理由については、授業時数を絶対確保できるのかという事態も考えて、リスクをマネジメントする意味で現状の短縮が良いとしており、回答者の立場によって意見が違ってきます。リスクマネジメントのため3日程度の短縮は仕方ないと思っていますが、休むことなく夏休みが終わって授業が始まってしまう問題を抱えています。それぞれの立場上の意見ではありますが、保護者からは、教員の多忙さを理解しての意見ではないが、学力向上のためにも夏季休業期間の短縮を今後も継続することを望んでいることを受止め、小学校教員が現状の3日短縮で精一杯でこれ以上の短縮は厳しく、現状の3日短縮の維持が妥協点になると思います。一定の継続要望が保護者からある現実について、どのように説明をするのかということ。3日7日短縮を維持することになってもしっかりと説明は必要であり、中学校の7日短縮を変更するにはもっと説明が必要になります。私は9月1日に戻すことや短縮を減らすことにネガティブな感情はもっていません。子ども達も夏休みのぎりぎりまでクラブ活動していて、試合が終わったら直ぐに学校が始まるのでいいのかということもあるので、保護者の方々の気持ちをどう受止めるのか、どう説明するのか教育行政に課せられた説明責任だと思います。続けて欲しいという気持ちに対して教育委員会がどう説明するか「こんな学習支援をしている」、「時間数や質を確保している」といった一定の答えがあれば保護者の方の理解が得られると思います。

〈委員F〉 アンケートの質問の仕方によって保護者の意見も短縮継続に傾いたのではないのでしょうか。夏休みを短縮して欲しいという意見を聞いたことはありません。夏休みは、暑くて勉強の能率が下がるからあるのであって、気候が落ち着いたら授業が始まります。8月28日から授業が始まるのは自分でも経験が無いので違和感があります。授業時数がインフルエンザ流行や警報発令で減った場合は、その後の長期休暇を減らして授業時数を確保することは誰もが納得することではないのでしょうか。

〈委員G〉 正月明け直ぐに学校へ行かれるのは結構きびしいです。だから、多少の夏季休暇短縮は仕方ないと思います。冬休みを減らされるのは保護者も大変です。

〈委員長〉 他の地域が夏休短縮しているのを知れば、紀の川市はしないのかになりますが、授業時数が増えたら勉強ができるようになると考える保護者もいると思います。

〈委員F〉 「子育てが楽になるから」が短縮継続の理由では教育的な理由とは言えないです。程度の問題で、正月明けて直ぐに学校では厳しいですが、1日早く開始なら問題ないと思います。

- 〈委員G〉 冬休みを減らされるなら、夏季休暇短縮の方がいいと思います。
- 〈委員長〉 夏休み明けを9月1日としても授業時数が確保できていますが、気象警報が多発されたりインフルエンザが流行して休校や閉鎖になると授業時数を確保できなくなるので、そのリスクを回避するためなら保護者も夏季休業期間の短縮を理解してくれるという意見ですね。
- 〈委員G〉 エアコンを設置すると増加する電気代はどこから増やすのですか。夏休みを短縮するためにエアコンを設置するのですか。
- 〈事務局〉 市の政策としてエアコンを設置するので、増加する電気代は経常経費とは別に増やします。PTAの会議でもエアコンの設置を感謝いただきました。
- 〈委員G〉 エアコンを設置して電気代を増やしてまでも夏休みを短縮する必要はなく、それなら自宅で勉強していればいいと思います。
- 〈事務局〉 夏休を減らすためにエアコンを設置したのではなく、6月でも暑い日があるので快適な環境で学習してもらうためにエアコンを設置します。
- 〈委員B〉 2学期制を導入してから現在に至るについて、途中で学校の現場に合ったような形で修正しつつ今まで見直してきており、意識的には3学期制に持ち込んできていて、途中で修正しつつ今回10年を経過しての検証することになっており、それでいくと、小学校3日中学校7日の夏季休業期間の短縮は開始してまだ年数しか経過していないので、もう少し検証期間が必要だと思います。本音は、夏季休業期間の短縮は廃止して欲しいですが、制度はそんなに変わっていいものではないと思います。
- 〈委員長〉 おっしゃる意味はよく分かりましたが、教員は短縮を継続しないで、保護者は継続して欲しいと結果になっているので、今のまま小学校3日中学校7日の夏季休業期間の短縮を維持することになったとしても、それをどのように考えているのか。例えば中学校では7日間短縮していますが、本当に授業をするのは3日間程度で、他の4日は必要なかったとか。その辺りをどのように考えているのか。小学校と同じ3日短縮で良かったと思いながら短縮されているのであれば、その4日の使い道をどのように考えているのか。そこから先は学校経営の問題になりますが、言われているから7日短縮するのではなく、先生方の負担を吸収しながら子どもの負担も吸収しながら、この先何年かは7日短縮を継続し検証するのであれば、何年か実施してきた中での問題をどう捉えるのか。保護者に対する説明責任があるが、先生方についても説明責任があると思います。研修に行く日が取れないとかの意見が既に出ています。
- 〈委員B〉 先ほどの意見は小学校の意見です。中学校の7日は違う話になってきます。小学校で3日短縮を実感したのは、今年が初めてです。前までは土日が絡んで実質1日の短縮でした。
- 〈委員E〉 中学校では普通教室にエアコンが設置され快適ですが、特別教室で設置され

ていない教室が多く、集会を開く視聴覚室や多目的室には設置されているのですが、設置されていない教室で授業している先生は泣いているのですが、登下校の熱中症の危険性もあり、ほとんど効果が上がらないので慣らし程度の日数の短縮でいいと思います。

〈委員C〉 夏季休業期間の短縮を小学校は3日、中学校は7日とし4日の差を付けて制度を改正した理由を基に検証すれば良いことです。エアコンの設置と夏季休業期間の短縮は関係ないと事務局は説明しましたが、当初の資料中では「小学校の普通教室にエアコンが配備されることに伴い」と記入されていますので、職場の先生は、エアコンが整備されたら中学校と同じように短縮されると思っています。その辺を確認していただきたいと思います。

〈事務局〉 検証委員会に協議をお願いしている大きなテーマは、2学期制と長期休業をどうするかでございまして、2点目の長期休業につきましては、今までエアコンが設置されることによって更に長期休業期間を短縮するという考え方がありましたので、それに移行していくのか、それとも今までどおりとするのか念頭にありましたが、その前に平成26年度から導入した夏季休業期間の短縮は、効果があったのか検証しないと、「エアコンを小学校に設置することによって、単純に小学校の夏季休業期間を短くすることだけをテーマとしていいのか」、「今まで夏季休業期間を短縮したことで効果が出ているのか」、それと中学校3年生については、7日短縮でぎりぎり授業時数が確保されるという意見でしたので、1・2年生で授業時数が足りていたとしても学校全体としては7日短縮にしておかないと後で困ることにもなりますので、今まで短縮してきたことの意味をまずいただいて、短縮が機能しているのか検証したかったのです。それと平成26年度から夏季休業期間の短縮を導入して数年しか経過していないが変更するのはどうかという意見もありますが、その前に小学校にエアコンを設置することによって夏季休業期間を8月24日までとする案がありましたので、それを導入する前に現状の夏季休業期間短縮の検証を行った上で、7日短縮へ移行させるのであれば、現状の夏季休業期間短縮が検証の結果により不適切となれば、現状も変えないといけませんから、やはりこの検証委員会でしっかり議論をいただいて検証をやらない限り小学校の夏季休業期間を8月24日までとする議論はできないということでこのアンケートを実施しました。

〈委員長〉 エアコンを設置したのは、環境整備は整ったので可能になるが短縮を実施するかしないかは別の話ですね。するかしないかという話は教育活動として、3日7日短縮というのは、適切に運営されているのかということで3日7日短縮を考えるべきであって、エアコンが導入されたことは単なる環境の問題です。平成26年度に夏季休業期間の短縮を導入してまだ3年目です。現状維持の短縮で運営するという結論は出しやすい結論と思いますが、小学校の3日短縮が本当に必要であり、余裕をもって子どもたちに接し教育活動ができるために3日が必要であるとの考えで3日短縮するのか、また中学校では実際に7日夏季休業期間を短縮するのは厳しいという意見がかなり大きく占めていますが、現状維持となれば7日短縮を維持することになります。先生方の研修等で多忙な問題をどう解決するのかを含めて考えないと答えは出て来ないと思います。まず、小学校ですが「3日短縮の現状維持の方向で考えて良い」と委員の先生方はお考えでしょうか。

- 〈委員F〉 もし、小学校の夏季休業期間の短縮が7日となれば、保護者としてはエアコンが設置され、さらに環境整備が進められ夏季休業期間がどんどん短縮されることを期待します。勉強時間が長くなると学習能力も付くという考えも一理あると思うので、元に戻せなくなると思います。先生方の負担や仕事量、子ども達の生活のバランスが大切だと感じます。こちらは一方の目線で見せていませんので。
- 〈委員長〉 委員Fとしては、小学校の夏季休業期間の短縮は3日が妥協できるでしょうか。
- 〈委員F〉 妥協できるというより夏季休業期間の短縮は3日で十分です。環境を整えば夏休は暑いからあるという感覚がなくなり、もっと勉強できると考えます。夏休は勉強だけでなく夏休としての意義があると思います。
- 〈委員長〉 保護者としては、小学校の夏季休業期間の短縮は3日を維持し、中学校と同じ7日短縮は必要なしでよろしいですか。学校側も3日で十分で7日のメリットを感じないでしょうか。
- 〈委員C〉 そもそも授業時数の確保という面で改正があったのであれば、小学校は十分足りているのでこれ以上夏季休業期間の短縮は必要ないです。
- 〈委員長〉 今回で夏季休業期間の短縮を廃止して9月1日に戻すのは難しいと思いますが、小学校に入学すると小学校は6年間あるので、途中で変わるのも困りますからもう少し時間をもって夏季休業期間の3日短縮が授業時数の確保という面で導入されたが、実際に委員の皆さんの意見からすると無くても大丈夫な小学校の実態と3日伸ばした分は有益な教育活動に繋がるのかという両方の検証が必要ですね。
- 〈委員B〉 小学校は夏季休業期間を3日短縮しなくても授業時数が足りているので、3日でリスクマネジメントは足りるとの話なので自分もそう言ったのですが、最近の警報の発令状況や台風の発生状況は今までの気候の様子と変わってきていますので、今までの範囲の中での意見としてください。
- 〈委員長〉 とりあえず、小学校は夏季休業期間の3日短縮を維持し、短縮を伸ばすことは今回見送り、中学校は7日短縮による厳しい現状がありますので、大変さはこの検証委員会に任されたことなので、苦しい状況で7日短縮を実施していることと先生のスケジュールが厳しいことになっている状況を答申に反映させていただいて、今後の何年かの中に更にもう一回検討を加えて7日短縮を減らすことも視野に入れて考えていかないといけないことになっているということ添えた上で、目安どころは小学校に合わせて3日にできればという意見ではあるが、当面7日の短縮を保護者の方にご理解いただけるような形で現状を訴えながら維持することでよろしいでしょうか。
- 〈委員E〉 思いを答申に記入してもらえたら、直ぐに止めるとか検証する部分も必要なので仕方がないと思いますが、先生方の「しんどさ」だけではなくクラブチー

ムのこととかそういうことを考えたら頑張ってやられている先生は不便を感じています。

〈委員B〉 もともと夏季休業期間の短縮は7日だったのですか。

〈委員H〉 最初は、実力テストを夏休中にもって行って、夏休中に1日授業日数を確保するために打ち出していったのが始まりです。岩出市は冬休み3日短縮をしています。年末2日と年始に1日です。

〈委員長〉 どこで短縮を取るかですが、紀の川市は夏季休暇で短縮しています。7日の内2日は土日が入るので実質5日の日数確保になりますが、それが本当に必要なかということとそのため先生方が「きつい」思いをしているという現状を添えてご報告させていただいて、これ以上短縮を増やせないのは先生方の「どうこう」ではなくて、こういうことなので中学校の短縮はこれ以上無理で、できればもう1日か2日減らして、子どもさんと先生方の余裕をもった活動をさせてあげた方がいいのではないかという意見もあることを保護者の方にも一定のご理解をいただかなくてははいけません。

終了予定時間の7時を15分越えています。最後にお話したような方向で、事務局でまとめていただくことでよろしいでしょうか。本日に次回の日程を決めればよろしいのですが、次回の日程をいつ予定していますか。

〈事務局〉 年内にもう1回実施し今日の意見を取りまとめた答申案の協議をお願いしたいと思います。12月の19か20か21日で実施したいと思います。

〈委員長〉 20日・21日は懇談会の予定があるようですので、19日でいかがでしょうか。19日でよろしいでしょうか。それでは、12月19日の午後5時30分からとします。それまでに答申案としてまとめたものを開催通知と一緒に送らせていただいて内容確認していただくということで、それを持参していただいて次回の検証委員会にご意見をいただくことにしたいと思います。次回は12月19日の午後5時30分からとします。本日は皆様から率直な意見をいただきありがとうございました。

〈事務局〉 以上を持ちまして第2回の会議を閉会したいと思います。お疲れ様でした。